



AKITA

〔10月〕

県内経済

概況

県内経済は、持ち直しの動きが続いている

木材の生産は減速感を強めているが、電子部品、機械金属は堅調に推移している。建設は、住宅着工が前年を下回ったが、公共工事は増加傾向で推移している。個人消費は持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善基調にあるが、一部業種では人手不足が深刻化している。

産業別の動向では、電子部品の生産額はスマートフォン向けが横這い傾向にあるが、車載向けが増勢を強め、3か月連続で前年を上回った。機械金属の生産額は、輸送機械で北米および国内向け自動車部品の堅調な動きが続き、7か月連続で前年を上回った。木材は普通合板(9月)で生産量が18か月ぶりにマイナスに転じ、生産量、出荷量ともに減速感を強めている。公共工事請負額は7か月連続で増加し、年度累計でも前年度を上回って推移している。地元大手(12社)の建設受注額は、官公庁工事、民間工事ともに振るわず、3か月ぶりに減少

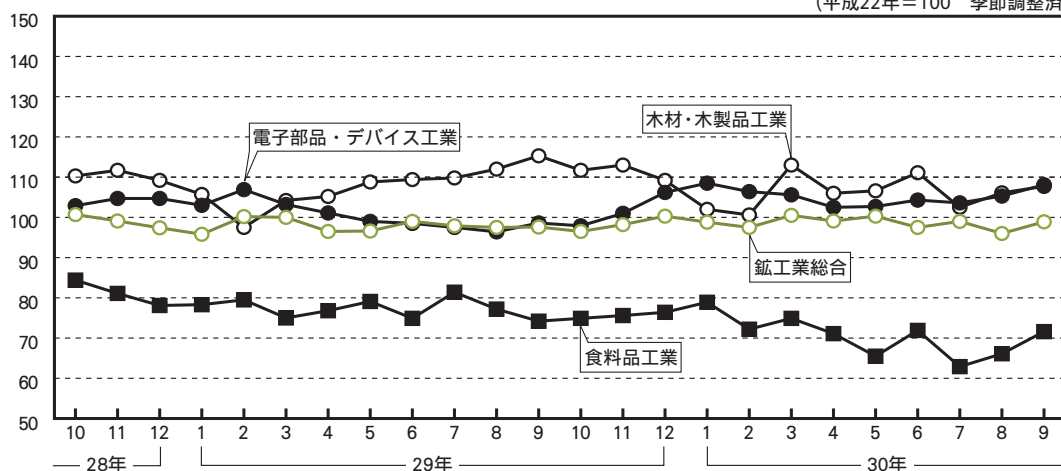
した。住宅着工は持家が減少し、4か月ぶりに前年を下回った。個人消費は、小売店販売額(9月)および新車乗用車販売台数が前年を上回り、全体として持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.01ポイント低下し1.51倍となった。新規求人数は前年比12.8%増となり、2か月連続で増加した。事業主都合離職者数は2か月ぶりに前年を下回った。

企業倒産件数は0件であった。倒産件数は、昭和46年の集計開始以降初めて0件となった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(平成22年=100 季節調整済)



資料：秋田県調査統計課

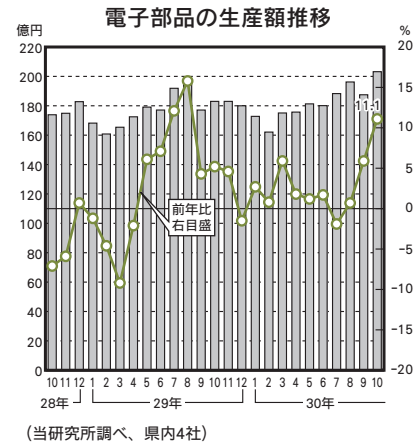
## 電子部品

生産額、大幅増

10月の生産額は前年比11.1%増と3か月連続で前年実績を上回り、平成27年3月以来、3年7か月ぶりに200億円を超えた。

スマートフォン向けは北米大手スマートフォンメーカーの新モデル発売の影響が一段落し横這い傾向となっているものの、電装化や自動運転などの技術革新が進む車載向けが増勢を強めていることから高水準となった。

品目別では、主力のセラミック・コンデンサやインダクタは大幅増となっており、半導体素子も増加傾向が続いている。産業機器向けの液晶パネルは減少が続いている。

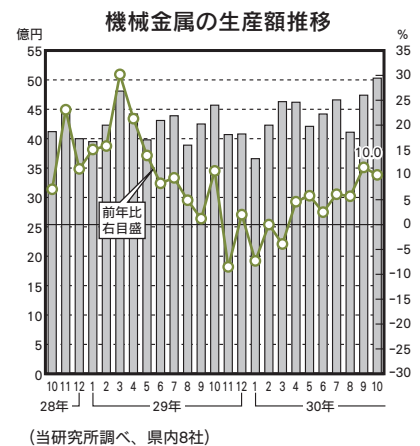


## 機械金属

生産額、続伸

10月の生産額は前年比10.0%増と7か月連続で前年実績を上回り、調査対象が現行の8社となつてからの過去最高水準となった。ウエイトの高い輸送機械において、自動車部品が北米向けの伸びが拡大していることに加え、国内向けも増加傾向にあることから全体の水準を押し上げている。

輸送機械以外の民需関連では、製鋼品は減少が続いており、好調な設備投資の影響で増加が続いていた金型も減少に転じている。持ち直し傾向にあった建機部品も大幅減となり、軒並み減少傾向にある。公共工事関連では、橋梁・鉄骨は上向きの兆しがみられるが、水道部品は横這いとなっている。



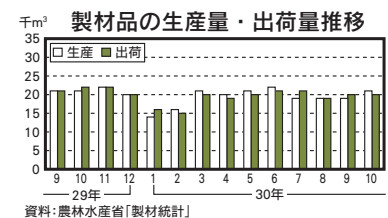
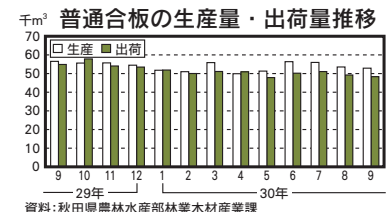
## 木材業

普通合板の生産、出荷が減速

全国的に、新設住宅着工など実需が伸び悩む中、豪雨や台風、大地震など相次ぐ自然災害も影響し、原木の出材不足や物流の停滞から、秋需は依然盛り上がりや欠く展開となっている。県内でも普通合板の生産、出荷が減速感を強めている。

9月の普通合板は、生産量が前年比6.5%減と18か月ぶりに前年比マイナスに転じ、出荷量も同11.9%減と2か月連続で前年実績を下回ったほか、減少率も二桁となった。これにともない、在庫量は同103.8%増と15か月連続で増加した。

10月の製材品は、生産量が5か月ぶりに前年比横這いとなったが、出荷量は同9.1%減と7か月連続で前年を下回った。

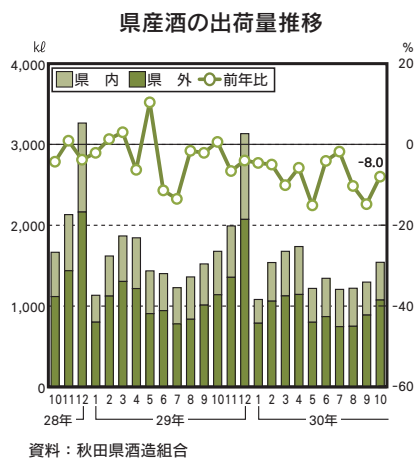


## 酒造業

### 出荷量、12か月連続で前年比減少

10月の清酒出荷量は、前年比8.0%減と12か月連続で前年を下回った。出荷先別では、県内向けが同12.9%減、県外向けも同5.8%減と、ともに前年を下回った。県外の主な出荷先別では、東京が同4.4%減、東北5県は同11.2%減、北海道も同10.8%減と、いずれも振るわなかった。種類別では、普通酒が同13.3%減と落ち込んだほか、特定名称酒も吟醸酒と本醸造酒が振るわず同0.4%減と、僅かに前年を下回った。

仙台国税局が10月に開催した平成30年東北清酒鑑評会で、本県から出品された76点のうち21点が優等賞を受賞した。東北6県で最多となった前年から8点減少し2位となった。



## 建設業

### 公共工事 国や県が増加し、7か月連続で前年比増加

10月の公共工事請負金額は、市町村等が減少したものの、国や県等が増加し、前年比8.3%増と7か月連続で前年を上回り、年度累計でも前年同期比27.0%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の10月の新規受注額は、前年比34.2%減の1,650百万円と3か月ぶりに前年を下回った。うち官公庁工事は、道路工事や河川の災害復旧工事などの大口受注があったものの同28.8%減と前年実績を下回り、民間工事も、同45.1%減と振るわなかった。これにより、年度累計の受注実績でも、前年同期比9.0%減と前月よりマイナス幅が拡大した。

#### 公共工事前払金保証実績

(単位: 件、百万円、%)

区分	10月	前年比	4~10月	前年同期比
件数	302	14.8	2,170	8.7
請負金額	12,182	8.3	116,820	27.0

資料: 東日本建設業保証㈱秋田支店

#### 地元大手企業12社受注額

(単位: 百万円、%)

区分	10月	前年比	4~10月	前年同期比
官公庁	1,192	△28.8	11,813	16.8
民間	458	△45.1	5,326	△39.0
合計	1,650	△34.2	17,139	△9.0

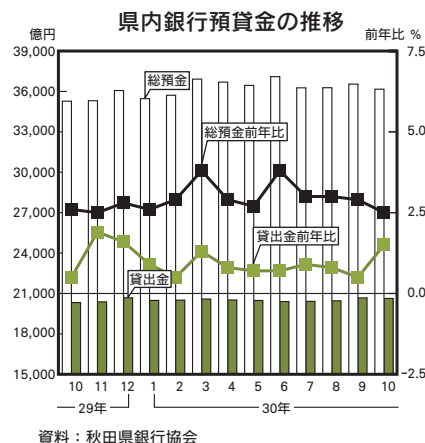
(当研究所調べ、県内12社)

## 金融

### 企業倒産、集計開始以来初めて発生せず

10月末の県内銀行の預金は、前月末比375億円減少したが、前年比では2.5%の増加となった。貸出金も、前月末比39億円減少したが、前年比では1.5%の増加となった。預金、貸出金とも引き続き前年を上回って推移しているなかで、伸び率はこのところいずれも鈍化傾向にあったが、10月は貸出金の伸び率が前月よりも拡大した。

10月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は0件(前年比4件減)、負債総額も0円(同100.0%減)で、昭和46年に集計を開始以来、初めて倒産が発生しなかった。



# 住宅着工

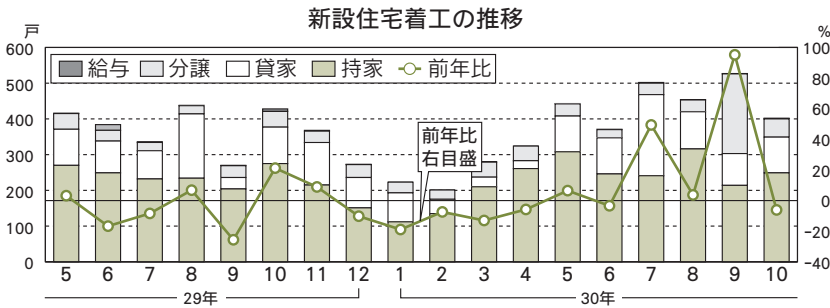
## 着工戸数、4か月ぶりに前年比減少

10月の県内新設住宅着工戸数は、402戸（前年比26戸減、6.1%減）であった。分譲住宅は増加したものの、主力である持家のほか、貸家、給与住宅も減少し、4か月ぶりに前年を下回った。

利用関係別では、持家が249戸（前年比26戸減）、貸家が100戸（同2戸減）、分譲住宅が51戸（同7戸増）、給与住宅が2戸（同5戸減）となっている。

持家は需要が伸び悩み、4か月ぶりに前年を下回った。貸家も横手市や鹿角市などでは伸びたものの、秋田市で民間の一般向け賃貸住宅が大幅に減少し、2か月ぶりに前年を下回った。分譲住宅は小規模戸建が増加し、4か月連続で前年を上回った。

地域別では、県央は持家と貸家が減少し、前年を下回った。県北は貸家、県南は持家、貸家、分譲住宅が増加し、前年を上回った。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	30年10月	前年比	30年1~10月	前年比
県北	71	31.5	696	11.5
県央	221	△27.5	2,210	9.8
県南	110	59.4	821	3.5
合計	402	△6.1	3,727	8.7

資料：秋田県建築住宅課

# 個人消費

## 持ち直しの動き

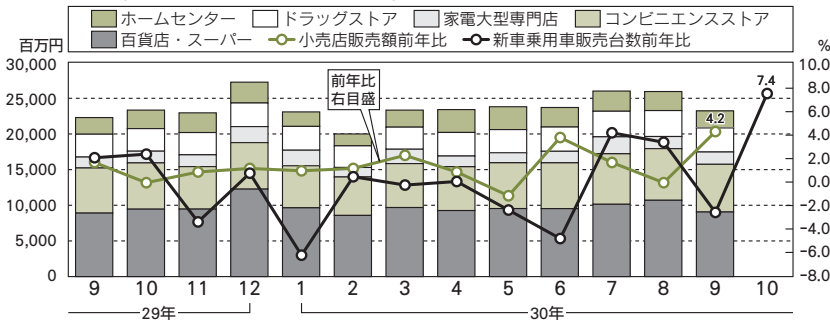
9月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、合計で前年比4.2%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。家電大型専門店（同12.8%増）で大幅に増加したほか、コンビニエンスストア（同5.6%増）やドラッグストア（同5.4%増）、ホームセンター（同2.4%増）でも増加した。

百貨店・スーパー販売額は、前年比1.7%

増となった。衣料品は、気温の高い状況が続いた影響により秋冬物が振るわず、前年を下回った。飲食料品は、鮮魚や惣菜などが好調となり、前年を上回った。

10月の新車乗用車販売台数は、前年比7.4%増の3,019台となった。普通車で減少したものの、小型車や軽乗用車を中心に増加し、2か月ぶりに前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

10月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	3,019	7.4
登録車	1,641	5.5
普通車	634	△3.9
小型車	926	13.5
輸入車	81	2.5
軽乗用車	1,378	9.6

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	7月	8月	9月
①消費者物価指数	1.2	1.6	1.6
②勤労者名目賃金	△5.3	△6.0	△0.9

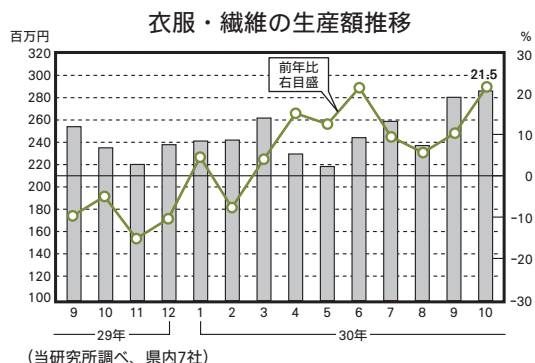
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）  
②秋田県（事業所規模5人以上）

## 衣服・繊維

### 生産額、8か月連続で前年比増加

10月の生産額は、前年比21.5%増となった。冬物の生産が最盛期を迎え、8か月連続で前年を上回った。

受注も、アイテムによりばらつきはみられるものの、春物への切り替えが進むなか、紳士服・婦人服ともに増加し、3か月連続で前年を上回った。



## 雇用

### 有効求人倍率は1.51倍、高水準続く

10月の有効求人倍率は、1.51倍となった。前月比0.01ポイント低下したものの、高水準が続いている。常用の内訳では、一般は前月比0.01ポイント上昇の1.40倍、パートは同0.04ポイント上昇の1.63倍となった。

新規求人数は前年比12.8%増となり、2か月連続で前年を上回った。産業別にみると、製造業は同4.4%増となった。「電気機械器具」、「食料品」、「情報通信機械」などで減少したものの、「木材・木製品」で二桁の増加率となった。非製造業は同13.8%増となった。「卸売、小売」で減少したものの、東京五輪関連や災害復旧の事業が増えている。

「建設」、来年4月横手市にコールセンターが開設される「サービス」などで二桁の増加率となったほか、その他の業種でも増加した。

新規求職者数は前年比3.7%増と、3か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は、前年比2.3%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南の全地域で増加した。有効求人倍率は県北が最も高く1.74倍、県南が1.47倍、県央が1.37倍となった。

#### 業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

(単位：人、%)

区分	30年9月		10月	
	前年比	前年比	前年比	前年比
新規求人計	9,640	3.9	9,889	12.8
製造業	1,067	△4.1	1,001	4.4
食料品	176	△32.3	208	△14.4
繊維	185	△5.1	170	0.0
木材・木製品	30	△11.8	52	48.6
電子部品・デバイス・電子回路	198	23.0	110	△3.5
電気機械器具	60	△34.1	51	△27.1
情報通信機械	6	△53.8	18	△5.3
非製造業	8,573	4.9	8,888	13.8
建設	1,053	△0.1	1,133	26.7
情報通信	52	36.8	57	21.3
運輸、郵便	522	26.4	588	21.5
卸売、小売	1,511	△8.3	1,580	△4.6
宿泊、飲食サービス	1,440	67.1	1,005	21.4
生活関連サービス、娯楽	405	△27.4	379	0.8
医療、福祉	1,558	△8.2	1,748	8.0
サービス	1,213	12.2	1,384	23.7
新規求職者数	3,646	△11.5	4,161	3.7
有効求職者数	15,436	△4.3	15,598	△3.0

資料：秋田労働局職業安定課  
(注) 臨時・季節を含む。

#### 有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位：倍、人、%)

区分	有効求人倍率			
	30年7月	8月	9月	10月
有効求人	1.35	1.37	1.39	1.40
常用	1.45	1.52	1.59	1.63
パートタイム	1.50	1.51	1.52	1.51
全数(季調済)	1.50	1.51	1.52	1.51
事業主都合離職者数	156	183	217	213
前年比	△40.0	△34.9	24.7	△2.3

#### 10月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

(単位：人、%、倍、ポイント)

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	2,078	12.1	1.74	△0.03
県央	4,119	14.4	1.37	0.02
県南	2,324	15.9	1.47	0.03
合計	8,521	14.2	1.47	0.01

(注) 臨時・季節を除く。